

---

# 大学教育学会ニューズレター

No.118 2021.9.24

---

一般社団法人大学教育学会 (*Japan Association for College and University Education*)

事務局：〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204

TEL/FAX：(042) 707-8112

郵便振替口座：00210-9-102857 一般社団法人大学教育学会

E-mail: office@jacue.org URL: <http://jacue.org>

---

## 大学教育学会 2021年度課題研究集会

統一テーマ

### 学生が成長するための大学教育～新たな展開への挑戦

大学教育学会 2021 年度課題研究集会 企画委員会委員長  
中井 俊樹 (愛媛大学)

2021 年度大学教育学会課題研究集会は、課題研究集会の統一テーマを「学生が成長するための大学教育～新たな展開への挑戦」として、基調講演、開催校シンポジウム、ポスターセッションを行うことにいたしました。

新型コロナウイルス感染症への対応に迫られた昨年度の経験を踏まえて、2021 年度は学生が成長する大学教育にするために動き始めている 1 年だといえるでしょう。遠隔授業の活用方法、国際交流を含めた学生の活動、学生の不安に寄り添う支援、緊急時のトップマネジメント、大学という施設の考え方等々、この状況になったからこそ改めて考えさせられるものがあります。

新たな大学教育の展開に向けて、個々の教職員が柔軟に対応していくことだけでなく、大学が組織的に対応していくことが重要になるでしょう。たとえば、遠隔授業の強みを生かすためには、個々の授業レベルだけでなく、カリキュラムレベルの工夫が求められるでしょう。ある学年のある学期を遠隔授業のみにして、留学やインターンシップなどの学生の活動を促進するなど、これまでには実現できなかった柔軟な履修や学習を可能にするカリキュラムを構築することができるでしょう。

そこで今回の課題研究集会では、基調講演として、日本に先んじてコロナ禍の影響を受けたイギリスの大学教育における挑戦について、香港教育大学教育学部学部長であるブルース・マクファーレン先生に御講演いただくことにいたしました。また、開催校シンポジウムでは、学校法人・大学のトップを務める 4 名の先生方に、何を課題と考えており、新たな展開として着目していることは何かについてご報告いただくことにいたしました。

基調講演とシンポジウムを通じて、学生が成長するための大学教育について広い観点で捉え、ご参加の皆様がそれぞれの立場で今後の大学教育のあり方について示唆が得られる機会になれば幸いです。

# 大学教育学会 2021 年度課題研究集会

## 実施要項

統一テーマ：学生が成長するための大学教育～新たな展開への挑戦

主催：一般社団法人 大学教育学会

共催：「理工学教育共同利用拠点」(芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター)

期日：2021年11月27日(土)～11月28日(日)

形式：Zoomによるオンライン開催

### 【スケジュール】

第1日

9:30	13:00	13:30	13:40	15:00	15:10	17:00
ポスターセッション 同時双方向質疑応答(推奨)	開会行事		基調講演		開催校シンポジウム	

第2日

9:30	12:00	13:00	15:30	15:40	16:00
課題研究シンポジウムⅠ、Ⅱ	休憩	課題研究シンポジウムⅢ、Ⅳ		閉会行事	

### 第1日 11月27日(土)

9:30 ～ 13:00 ポスターセッション 同時双方向質疑応答(推奨)

13:00 ～ 13:30 開会行事

開催大学挨拶

学会会長挨拶：山田礼子(同志社大学)

13:40 ～ 15:00 基調講演

演題：「コロナ禍の影響を受けた大学教育の新たな挑戦」

講師：ブルース・マクファーレン氏(香港教育大学教育学部 教授/学部長)

15:10 ～ 17:00 開催校シンポジウム

テーマ：「学生が成長するための大学教育～新たな展開への挑戦」

シンポジスト：

① 学校法人濱名山手学院理事長・関西国際大学学長

濱名 篤氏

② 学校法人桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学学長

溝上慎一氏

③ 芝浦工業大学学長

山田 純氏

指定討論：情報・システム研究機構監事、東京家政学院理事長

吉武博通氏

司会：榊原 暢久(芝浦工業大学)

### 【ポスターセッション発表者一覧】

1. 2006年度から2020年度にあった体育・スポーツの大学教員・研究者公募の状況  
小林勝法(文教大学)
2. 学びにおける納得感と納得感尺度の開発  
橋本健夫(長崎国際大学)、劉卿美(長崎大学)、橋本優花里(長崎県立大学)
3. 大学職員の内発性に基づく役割モデルの再構築に向けた国際比較研究  
深野政之(大阪府立大学)
4. 機関別認証評価における学修成果に関する評価情報  
高森智嗣(福島大学)
5. アクティブ・ラーニング型授業における自信を可視化する試み—人生満足度曲線を援用して—  
佐瀬竜一(常葉大学)、増井実子(常葉大学 非会員)、谷誠司(常葉大学 非会員)、戸田裕司(常葉大学 非会員)、安武伸朗(常葉大学 非会員)、柘植健一(常葉大学 非会員)
6. オンラインスピーチで重視される要素  
藤木美奈子(桜美林大学)
7. 日本語の話し言葉・書き言葉に対する意識と学習観の関係について  
秋山英治(愛媛大学)
8. 高等教育段階の教育学習支援人材活用に向けた政策展開に関する研究  
鈴木学(福岡大学)
9. ファカルティ・ラーニング・コミュニティ(FLC)の形成(2)・大学教育における実践コミュニティ生成を再考する  
杉森公一(北陸大学)
10. 大学IRにおける実践と課題の関係-2019年の全国調査結果をもとに-  
清水強志(創価大学)
11. 学びにおける「復習」の意義の再考:学んだことを振り返り自らの知識とするための「復習」  
河住有希子(日本工業大学)、たなかよしこ(日本工業大学)
12. 進路の不一致性が学習活動に及ぼす影響について—医療系の学生における分析—  
森川恵子(純真学園大学)、杉井裕(純真学園大学)
13. 大学事務職員の大学等設置認可申請業務経験を通じた学びとその応用可能性  
荒木俊博(淑徳大学)
14. 卒業生は短期大学をどのように評価しているか—在学時調査と卒業後調査の比較—  
堺完(大分大学)、宮里翔大(桜美林大学)、山崎慎一(桜美林大学)
15. データ科学マインドの構造  
渡邊文枝(早稲田大学)、中原悠太(早稲田大学 非会員)、田和辻可昌(早稲田大学 非会員)、若田忠之(早稲田大学 非会員)、宮崎淳(早稲田大学 非会員)
16. リモート環境下でも活性化するワークショップ型授業の開発と実践報告  
川崎弘也(株式会社ラーニングバリュー)、本田直也(大手前大学)
17. 新聞を用いた入学前教育の遠隔アクティブラーニング化:追跡調査の結果  
中世古貴彦(九州産業大学)、小田部貴子(九州産業大学)、森誠子(九州産業大学)、松原岳行(九州産業大学)
18. コロナ禍における初年次生の学び—学びのアンケート結果から  
宮原千咲(広島修道大学)、谷岡亮(広島修道大学 非会員)、斎藤佳子(広島修道大学 非会員)、森河亮(広島修道大学 非会員)
19. 大学における初年次教育の現状と分析  
春日美穂(大正大学)、由井恭子(大正大学 非会員)

20. グループ活動を中心としたオンライン授業に対する学生の評価  
三井規裕(関西学院大学)、阿部一晴(京都光華女子大学 非会員)、濱中倫秀(京都ノートルダム女子大学)
21. 自己評価ルーブリックに見えるディプロマポリシーの認識 — 専門領域の違いを通して見えてきたこと—  
大塚みさ(実践女子大学短期大学部)、三田薫(実践女子大学短期大学部)、松島照彦(実践女子大学 非会員)、白尾美佳(実践女子大学 非会員)
22. 三重大学初年次教育「教養セミナー」の講義デザインと有効性  
福田知子(三重大学)
23. 大学体育における可視化教材の開発と使用モデルの提案-剣道形の授業実践に着目して-  
高瀬武志(桐蔭横浜大学)

## 第2日 11月28日(日)

9:30 ~ 12:00

**【課題研究シンポジウム I】**「学修成果アセスメント・ツール活用支援を通じたエキスパート・ジャッジメントの涵養と大学組織の変容 — 課題研究の成果と今後の展望」

本課題研究では、教育のデザインと評価にかかる大学教員の専門性(エキスパート・ジャッジメント)を鍛えることを通して、大学組織はいかに学修者本位の教育(学習システム・パラダイム)への転換を果たし得るのか、その転換を導く上で鍵となる条件とはいかなるものかを明らかにすることを目指している。大学教員と大学組織の変容を捉える方法論として、学修成果アセスメント・ツールの開発・共有・活用の取組について調査・支援する点に、本実践的研究のオリジナリティがある。そして、研究の成果を踏まえて、大学教員の変容と大学組織の変容を繋ぐ教学マネジメントのモデルを構築することに、本研究の問題関心がある。

3年間の研究期間の最終年度を迎える本課題研究にとって、課題研究シンポジウムとして登壇の機会を得るのは、今年度が最後となる。2021年度課題研究シンポジウムでは、「理工系総合大学での実践的研究(PBL, PEPA)」(サブテーマ4)、及び「Tuning テスト問題バンクの教学マネジメントへの活用」(サブテーマ5)の二つの実践的研究について、同年度年次大会ラウンドテーブル以降の進捗について報告したうえで、これらの実践的研究の基盤となった「エキスパート・ジャッジメントと組織変容」(サブテーマ1)、「国際調査」(サブテーマ2)、「医療系 PEPA」(サブテーマ3)の成果の再整理を含む研究の総括を行う。

大学の協力を得て推進する実践的研究は、コロナ禍の中で、必ずしも予定通り進捗しなかった。本課題研究は、3年間の研究の成果と残された課題を整理することで一旦締めくくるが、残された課題については継続して取り組み、次年度以降のラウンドテーブルにおいて報告する。

企画者：深堀聰子(九州大学)、松下佳代(京都大学)、伊藤通子(東京都市大学)、中島英博(立命館大学)、佐藤万知(京都大学)、田中一孝(桜美林大学)、畑野快(大阪府立大学)、斎藤有吾(新潟大学)、長沼祥太郎(九州大学)

司会者：田中一孝(桜美林大学)

趣旨説明：学修者本位の教育への転換の要件  
研究代表：深堀聰子(九州大学)

## 実践的研究の進捗

- ・理工系総合大学での実践的研究(PBL, PEPA) (サブテーマ 4)  
発表者: 伊藤通子(東京都市大学)
- ・Tuning テスト問題バンクの教学マネジメントへの活用(サブテーマ 5)  
発表者: 中島英博(立命館大学)

## 研究の総括

- ・実践的研究の基盤となった理論・実証研究の再整理  
発表者: 佐藤万知(京都大学)、中島英博(立命館大学)、長沼祥太郎(九州大学)、畑野快(大阪府立大学)、斎藤有吾(新潟大学)
- ・実践的研究から導かれる暫定的な結論  
発表者: 松下佳代(京都大学)、深堀聰子(九州大学)
- ・学修成果アセスメント・ツール活用支援を通じたエキスパート・ジャッジメントの涵養と大学組織の変容 — 課題研究の成果と残された課題  
発表者: 深堀聰子(九州大学)

コメント: 濱名 篤(関西国際大学)

## 【課題研究シンポジウムⅡ】「大学教育における質的研究の可能性」

本課題研究は、大学教育を対象とする優れた質的研究の事例収集と質的研究のあり方を探る方法的検討を行うことによって、大学教育における質的研究法の確立に向けた知見の提起を目指すものである。

今回のシンポジウムでは、大学教育における質的研究をめぐる解決すべき課題の一つとして位置づけられる、大学教育実践に活用される質的研究のあり方を探るための取組成果について報告する。また大学教育における質的研究方法の普及に向けた取組状況についてもあわせて報告する。

これらの成果を踏まえ、会員の皆様とともに、本課題研究の最終年度に計画している質的研究方法の普及活動に向けた展望を描きたい。

企画者: 山田嘉徳(大阪産業大学)、上島洋佑(桐蔭横浜大学)、森朋子(桐蔭横浜大学)、山咲博昭(広島市立大学)、谷美奈(帝塚山大学)、山路茜(立教大学)、西野毅朗(京都橘大学)、服部憲児(京都大学)

司会者: 上島洋佑(桐蔭横浜大学)

趣旨説明: 研究代表: 山田嘉徳(大阪産業大学)

サブテーマ 1: 大学教育実践に活用される質的研究の取組(仮)

講演者: 山田嘉徳(大阪産業大学)、上島洋佑(桐蔭横浜大学)、森朋子(桐蔭横浜大学)、谷美奈(帝塚山大学)、西野毅朗(京都橘大学)、服部憲児(京都大学)

サブテーマ 2: 大学教育における質的研究方法の普及に向けた取組(仮)

講演者: 森朋子(桐蔭横浜大学)、山田嘉徳(大阪産業大学)、上島洋佑(桐蔭横浜大学)、谷美奈(帝塚山大学)、山路茜(立教大学)、西野毅朗(京都橘大学)、服部憲児(京都大学)

12:00 ～ 13:00 休憩

13:00 ～ 15:30

【課題研究シンポジウムⅢ】「コロナ禍がもたらす大学教育の可能性～対象・方法・内容～」

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大を防止するため、ニューノーマル時代の新しい生活様式として、3密 (密集、密接、密閉) 回避などの実践が推奨されている。大学においても、これまで主流であった対面授業に加えて非対面授業 (オンライン授業) が実践されている。本課題研究では、このような状況にある大学教育の新たな可能性を、2つのサブグループが対象・方法・内容などから多面的に検討する。

サブグループ1の課題名は「非対面大学教育における学修成果の評価」である。授業とともに学修成果の評価を遠隔的に実施する事例に注目し、米国の社会人教育にみられる Competency-Based Education (CBE、成果基盤型教育) と国内の先進事例を取り上げる。今回は、米国の CBE について理論と事例の2つの視点から検討する。

サブグループ2の課題名は「ニューノーマル時代における学習環境デザインモデルの構築」である。ラーニングコモンズ、アクティブラーニング教室、オンライン授業など今後の授業形態の変化を見込んで、新しい時代に対応した学習環境の設計、運営、評価についてモデルを構築することを目的とする。今回は、コロナ禍以前・以後における学習支援環境や学習支援制度に関して複数の調査結果から検討を行う。

企画者:

サブグループ1: 塚原修一 (関西国際大学)、濱名 篤 (関西国際大学)、山田礼子 (同志社大学)、川嶋太津夫 (大阪大学)、森 利枝 (大学改革支援・学位授与機構)、白川優治 (千葉大学)、深澤晶久 (実践女子大学)

サブグループ2: 千葉美保子 (甲南大学)、村上正行 (大阪大学)、岩崎千晶 (関西大学)、川面きよ (帝京大学)、浦田 悠 (大阪大学)、遠海友紀 (東北学院大学)、嶋田みのり (東北学院大学)、多田泰紘 (京都橘大学)、石井和也 (宇都宮大学)

司会者: 村上正行 (大阪大学)

報告1: 米国の成果基盤型教育 (CBE) に関する理論的検討 (仮)

講演者: 山田礼子 (同志社大学)

報告2: 米国の成果基盤型教育 (CBE) の事例報告 (仮)

講演者: 塚原修一 (関西国際大学)

報告3: サブグループ2の研究目的・計画について

講演者: 千葉美保子 (甲南大学)

報告4: コロナ禍以前の学習支援環境に関する調査について

講演者: 川面きよ (帝京大学)

報告5: コロナ禍の学習支援環境に関する調査について

講演者: 遠海友紀 (東北学院大学)

報告6: ライティングセンターにおけるオンラインチュータリングを考える

講演者: 岩崎千晶 (関西大学)

指定討論: 溝上慎一 (桐蔭横浜大学)

## 【課題研究シンポジウムⅣ】「大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究」

本課題研究では大学教育・経営人材の育成について議論を行う。「大学経営人材」という言葉は以前より聞かれるが、それに「教育」を意図的に加えた。これからの大学人は、経営はもちろんだが、教育を含めた学術面に対する知見を持つことが重要であるとの考えに立っている。また、大学教育学会の課題研究として相応しいタイトルでもあると考えた。日本の大学の職員と経営陣は現場の仕事と一部の研修を通じて育成されるが、修了証プログラムや大学院教育を通して大学に関わる系統的な学びを行いたいとのニーズも存在し、重要な育成手段となっている。本課題研究では、大学院教育を通して大学教育・経営人材の育成について検討するが、それを通して問うべきは、大学という組織に関わる上で必要な知の有り様であり、それは学会の活動とも関わるものとなるだろう。初年度となる今回の報告では、本課題研究のコンセプトを紹介するとともに、国際比較、大学院で学んだ修了者の生の声など、複数の観点からこのテーマにアプローチする。大学院プログラムへの在学経験の有無に関わらず、幅広い関係諸氏の参加を期待する。

企画者： 福留東土(東京大学)、栗原郁太(東京大学大学院)、水野貴子(東京大学)、井芹俊太郎(神田外語大学)、中世古貴彦(九州産業大学)

報告者： 福留東土(東京大学)、井芹俊太郎(神田外語大学)、木村弘志(一橋大学)、河本達毅(桐蔭横浜大学)

司会者： 戸村理(東北大学)、蝶慎一(広島大学)

指定討論： 寺崎昌男(東京大学・立教大学・桜美林大学(名誉))、鳥居朋子(立命館大学)

### 15:40 ～ 16:00 閉会行事

学会副会長挨拶： 松下佳代(京都大学)

次年度大会開催校・課題研究集会開催校挨拶

## <課題研究集会実行委員会からのお知らせ>

### 1. 参加登録等について

2021年度課題研究集会の参加登録や、当日の参加方法などについては、別途、メールや学会ウェブサイト等を通じてご連絡いたします。学会員の参加費は無料、非学会員の参加費は2000円です。

### 2. ポスターセッションについて

大会予稿集による誌上発表という形態で実施します。同時双方向型の質疑応答を実施する場合には11月27日(土)午前の実施を推奨しています。当日の参加方法などについては、別途、メールや学会ウェブサイト等を通じてご連絡いたします。

### 3. 課題研究集会実行委員会の連絡先

課題研究集会実行委員会へのお問い合わせにつきましては、  
[jacue-kadai2021@sic.shibaura-it.ac.jp](mailto:jacue-kadai2021@sic.shibaura-it.ac.jp) にメールでご連絡ください。

## ＝理事会から＝

(2021年8月21日に2021年度第2回理事会が開催されました。詳細はウェブサイトをご覧ください。)

### ● 学会運営の新体制について

会長 山田礼子 (総務及び全体の総括担当)  
副会長 松下佳代 (学会誌・研究倫理担当)  
常務理事 濱名 篤 (企画広報担当)  
佐藤浩章 (研究開発担当)  
飯吉弘子 (国際化担当)

### ● 一部委員会の名称変更及び委員会の改選他

- ① 名称変更された委員会  
課題研究検討委員会 → 課題研究委員会
- ② 委員の改選があった委員会  
総務委員会 委員長: 高橋哲也、副委員長: 石渡尊子  
広報委員会 委員長: 中井俊樹、副委員長: 斉藤 準  
事業構想委員会 委員長: 白川優治、副委員長: 出光直樹  
国際委員会 委員長: 深堀聰子、副委員長: 夏目達也  
大学教育研究力向上委員会 委員長: 森朋子、副委員長: 井上史子  
課題研究委員会  
奨励賞選考委員会  
JACUEセレクション実行委員会
- ③ その他  
情報システム管理運営委員会は、広報委員会に統合する。

### ● 大学教育研究力向上委員会主催 オータムスクール2021開催【会員限定】

基本的な大学教育研究の進め方と質的研究法について学ぶ機会です。ぜひご参加ください。

- (1) 時期: 2021年10月中(事前オンデマンド研修)  
2021年11月3日(水・祝)9時～17時(リアルタイムオンライン研修、ZOOM使用)
- (2) 実施方法: オンライン開催  
事前オンデマンド研修は動画視聴、リアルタイムオンライン研修はZOOMを使用予定。  
※入金確認後に教材を視聴するための情報を送付します。(10月1日配信開始予定)
- (3) 対象者: 大学教育研究に組みたい会員 40名(先着順)  
\*先着順で受付中です。定員になりましたら申込サイトを閉鎖いたします。
- (4) 参加費: 2,000円
- (5) 講師・ファシリテーター予定者(敬称略)  
大学教育研究の基本: 寺崎昌男、小笠原正明、山田礼子、佐藤浩章、井上史子、大山牧子、  
西野毅郎、斉藤準、梅澤貴典(非会員)  
質的研究法: 森朋子、山田嘉徳、上島洋佑
- (6) 申込先、研修内容・スケジュール詳細について  
\*学会ウェブサイトにてログイン後ご確認可能です。



## ＝事務局から＝

### ● 会費納入のお願い

今年度(2021年度)会費が未納の会員には、請求書及び郵便払込票を同封させていただいております。過年度分会費の未納がある会員は、速やかにご入金ください。会費のご入金が入金日(9月6日以降)の場合、請求書及び郵便払込票が同封となっている場合がございます。会費納入状況について不明の場合、下記の大学教育学会 学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

納入は、下記のオンライン決済、または従来通り郵便払込票をご利用ください。

領収書につきましては、オンライン発行をご利用ください。

年会費等郵便振替口座 00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

また、銀行からご入金を希望される場合は、入金前に必ず、下記の大学教育学会 学会業務取扱センターまでその旨ご連絡下さい。

#### <「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先>

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0002 東京都豊島区豊島町24-1-4F

TEL:03-5981-9824 FAX:03-5981-9852

E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただいております。納入状況は、学会ウェブサイトの会員ページ内にあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。または、上記の大学教育学会 学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

### ● 年会費のオンライン決済の利用方法・領収書のオンライン発行の手順

2018年度より、年会費のクレジットカードによるオンライン決済ができるようになっております。同時に領収書のオンライン発行も可能となっておりますので、ご利用ください。

大学教育学会ウェブサイト・トップページにある「年会費オンライン決済」のボタンをクリックし、「オンライン決済ログイン」もしくは「領収書発行ログイン」のどちらかを選択します。

#### <オンライン決済の場合>

- ① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
- ② オンライン決済のページに移り、会費請求額が示されますので、ご確認の上、決済金額をご入力ください。  
\* 過年度分の会費が未納になっている方は、「年会費請求額」および「決済金額」を確認してください。  
\* デフォルトで未納分を合算した請求額を決済金額としていますので、単年度のみ決済を希望される場合は、決済金額を変更してください。この場合、古い年度分から決済されます。
- ③ オンライン決済画面では、決済金額を確認し、クレジットカード情報を入力してください。  
\* クレジットカード情報等の決済内容は、決済代行会社へ送信されるだけで、大学教育学会のサーバーに蓄積されることはありません。また、決済代行会社への通信は、SSL暗号化通信により、通信の秘密は保持されます。
- ④ 未納の会費がない場合は、「未納の会費請求データが見つかりませんでした」と表示されます。

#### <領収書のオンライン発行の手順>

- ① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
- ② 会員情報管理メニューの「年度別に会費を照会する」のボタンをクリックします。
- ③ 年度ごとに納付状況が示されます。領収書の必要な年度の「領収書の発行」ボタンをクリックします。
- ④ 領収書発行の画面の指示に従ってください。

## ● 大学教育学会第44回(2022年度)大会について

2022年度第44回大会は、2022年6月4日(土)・5日(日)に岡山理科大学にて開催予定ですが、コロナウイルス感染拡大の状況により開催形式が変更される可能性もございます。

お申込み等詳細について、次号(NL119号)にてお知らせの予定です。

## ● 2021年度(第17回)大学教育学会奨励賞の募集について

大学教育学会奨励賞は、大学教育および大学教育研究の発展を期して設けられました。受賞対象者は本学会個人会員です。2021年度(第17回)は、第40第1号から第43巻第2号までの過去4年間の学会誌に掲載された論文が対象となります。応募は自薦・他薦を問いません。

- ① 提出書類 <自薦>論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由(研究の意義・成果など1,000字以内)/<他薦>論文、推薦理由(研究の意義・成果など1,000字以内)
- ② 募集締切 2022年1月10日(月)必着 (締切厳守)
- ③ 送付先 大学教育学会事務局  
〒252-0231 神奈川県横浜市中央区相模原2-8-20-204  
E:mail: office@jacue.org

※なお奨励賞についての詳細は、「一般社団法人大学教育学会表彰規程」第2章をご確認ください。  
(本学会ウェブサイト内掲載)

## ● オンライン検索サービス提供について

従来の名簿に代わる会員検索サービスは、個人会員、団体会員が利用可能です。(ID・PWの入力が必須です。) 検索対象は個人会員のみです。

情報検索項目(基本情報)は、【氏名】、【カナ】、【所属先】、【専門領域】の4項目で検索(部分検索)可能です。その他の項目の開示・非開示については、会員本人の選択項目になります。

## ● 住所変更等会員情報更新のお願い

ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身でご変更をお願い致します。ID(会員番号)・PWを紛失された方は、大学教育学会 学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

## ● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年数回、大学教育学会メール通信(メールマガジン)を配信しております。ご登録のアドレスにおいて学会アドレスより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願い致します。



### 【大学教育学会事務局】

〒252-0231  
神奈川県横浜市中央区相模原2-8-20-204  
Tel/ Fax: 042-707-8112  
E-mail: office@jacue.org  
URL: <http://jacue.org>

### 【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況について】

〒170-0002  
東京都豊島区巣鴨1丁目24-1-4F  
大学教育学会 学会業務取扱センター  
TEL: 03-5981-9824, FAX: 03-5981-9852  
E-mail: g022ges-mng@ml.gakkai.ne.jp